2主体からなる経済における クラブ形成の可能性

本田 善基*

2007年5月

概 要

本論文はクラブ財が存在する経済において，主体がとりうる戦略的な行動に焦点をあてている．この経済においては，クラブを形成するか否かに関する戦略が重要な役割を果たすこととなるが，とりわけ，真の特性ではない戦略を表明することによる，クラブ形成の可能性に議論を特化している．

本論文の目的は，ある制度のもとで各主体が効用最大化行動をとったときにクラブ形成がなされない状況であっても，真の特性から逸脱する行動をとることによってクラブ形成がなされ，かつ，よりよい配分が達成される可能性があるということを示すことにある．これを示すために，2主体からなる経済を考える．ある主体は2主体からなるクラブを形成したいと考えており，他の主体は2主体のクラブを形成したくないと思っているものとする．これには，各主体の（私的財の供給による）クラブ財生産に対する貢献や混雑に対する判断が影響する．このとき，クラブを形成したいと考えている主体は，クラブ財生産に対する貢献度を高めることによって，クラブに入りたくないと考えていた主体がクラブに入る，という状況がある条件の下では起こりうるであろう．

本論文のモデルでは，主体数を2とし，加えて主体の効用関数をコブ・ダグラス型に限定をしている．これによって一般性は失われるが，一方で貢献度を明示的に表現することができ，また，図示が可能となるという利点がある．

本論文で述べられている命題は，戦略的に行動することによって，真の特性にしたがって行動するときよりもよりよい状態になる場合があり，クラブが形成されやすくなりうることを意味している．このようなことが起こる最大の要因は，2主体からなるクラブが形成される状況とそうではない状況とで，財の配分において連続的ではない乖離が生じることによる．

JEL 分類番号：D82; H49

キーワード：クラブ財，混雑，インセンティブ

*早稲田大学大学院経済学研究科 研究生